

植物生産土壌学コメント

2016年における台風災害、冷害、湿害、風害が十勝の農業に及ぼした影響

筒木 潔

別紙の図は、2016年の5月始めから10月下旬まで、帯広畜産大学の精密圃場で測定した気温と地温の変化を示したものです。

2016年は十勝の農家にとって過酷な年となりました。

大豆や小豆は5月20日頃に播種しますが、その後気温が上がらず、特に6月上旬に著しく低温となり、発芽が遅れました。さらに、発芽した頃に強風が吹き、小豆の芽が吹き飛ばされるという被害が起きました。

気温は6月を通じて低く、全ての作物の初期生育が遅れました。

小麦は7月下旬に収穫しますが、その頃に1週間ほど雨が続き、収穫が遅れるばかりか、麦の穂に赤カビ病が発生しました。

8月中旬から下旬にかけて、8号から11号まで4個の台風が十勝地方を直撃し、ビート、馬鈴薯、豆類の全てに湿害が現れました。雨で農業機械が畑に入れなかったため馬鈴薯の収穫が大幅に遅れました。

9月になってからは地温の低下が著しく、湿害も加わって、豆の根が腐り、収穫の遅れていた馬鈴薯とビートが腐りました。ながいもの肥大も悪く、収量が大幅に減少しました。

台風10号では、河川の氾濫により、農作物と土地そのものを流されてしまった農家さんもありました。

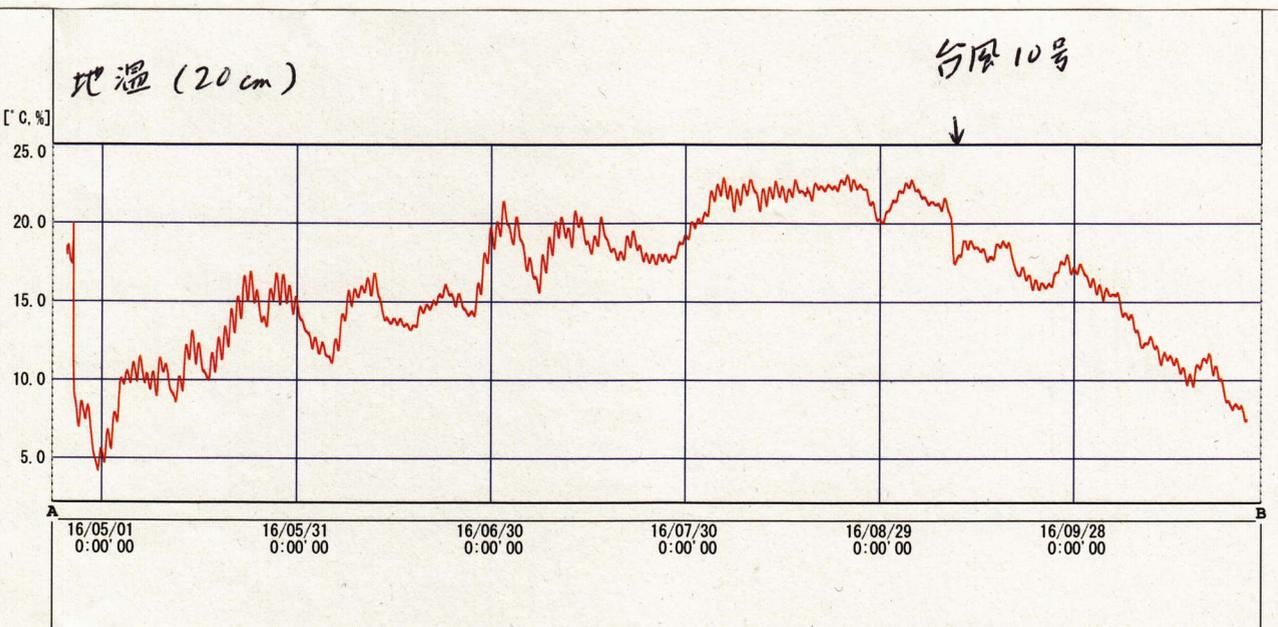
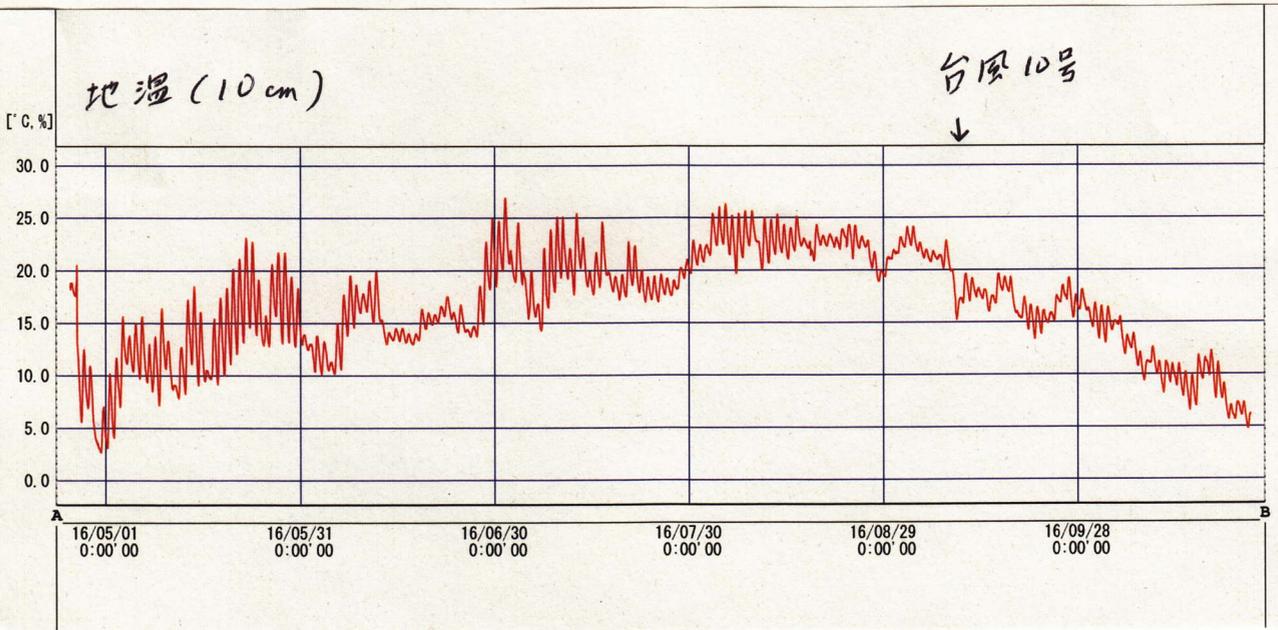
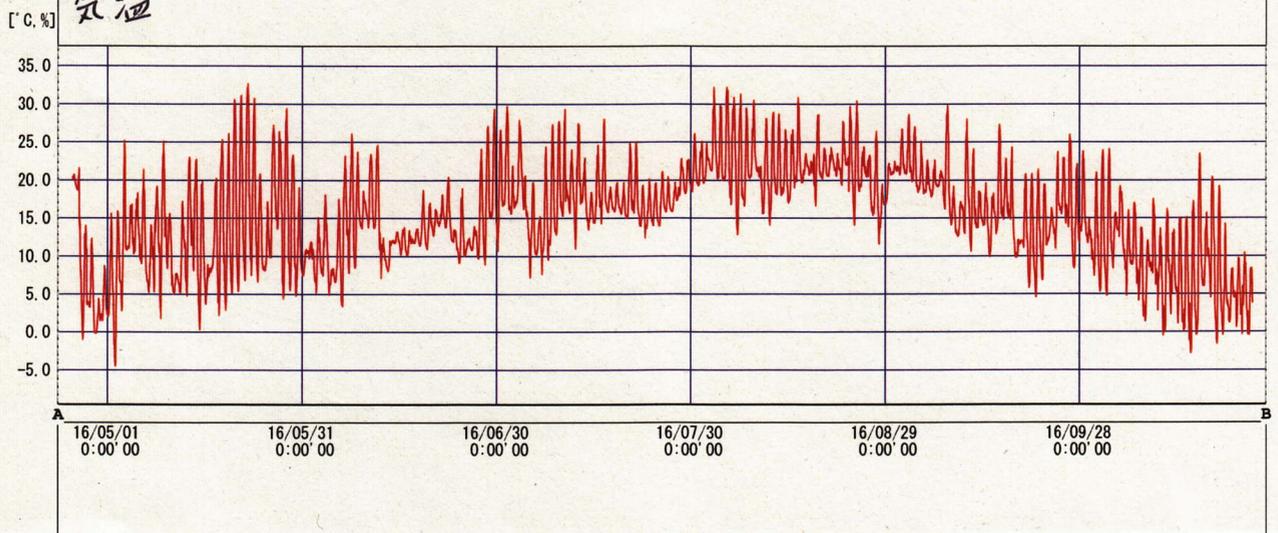
このように、2016年は十勝の農業が何重にもわたる災害を受けた年でした。

このような状況のなかでも被害が軽微であった例を探し、今後の災害対策と生産の安定化に生かすことが重要と思います。

の変化

測定者 筒木

気温



ポイント: 6月中の低温
7月の長雨

台風10号の後の急激な地温低下